

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちやいんどPOP			
○保護者評価実施期間	令和7年2月4日		～	令和7年3月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	令和7年2月4日		～	令和7年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の強みは、音楽遊びや体を動かす活動に特化しており、活動の中にも子供たちの成長に合わせた療育を取り入れながら且つ個別や集団を柔軟に対応出来るように支援を行えるよう努めています。	・活動の質が落ちないよう職員の配置や環境の配慮を行い全体が上手く回るよう話し合い決めています。 ・視覚支援を活用し、職員と子供たちのコミュニケーションの向上、自発的な表現力を引き出せる様に意識しています。	障がい特性の勉強会や研修会の機会を増やす事で、職員の質の向上につながり、現場での対応の力の向上を目指します。また、子供たちの成長にあわせ、視覚支援の幅を広げ、表現の力(意思表出)を伸ばしていきたいと考えています。
2	重症心身障がい児と重症心身障がい児以外の施設があるため、大人だけでなく子供たち同士の関わりがもてます。	活動や自由を共に過ごし子供同士の関わりや時間を大切にしている。	子供同士の関わりを今後も大切にすることで、お友達に対する気持ちを育みます。
3	活動や個別に合わせて、(重症心身障がい児)のストレッチやリハビリに取り組めるよう努めています。	他事業所と連携し見学しています。 また、事業所でリハビリを行う際は、子供たちが楽しく取り組めるよう話し合い工夫しています。	子供たちが楽しくリハビリや気持ちよくストレッチに取り組むことで、少しでも側弯防止に繋げたり、運動機能の向上に努めていけると考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアルも整備されており、避難訓練等もおこなっているが実際緊急事態が起こった時に、焦らず対応出来るよう全職員に周知と訓練を継続的に個行っていく必要があると考えています。	実際、緊急事態が起こった時、対応する職員で適切に行動ができない可能性が考えられます。	救急救命のように緊急時対応の動きを動画で分かる物にしていく必要があると考えています。
2	保護者さんへの情報発信が不十分の可能性あります。	日々の支援内容等は送迎時や連絡帳を通じて伝達できていますが、計画の説明や各マニュアルなどの情報発信が保護者さんへ充分ではないと考えています。	SMSなどを上手に活用し情報発信が行える様にしていけるよう検討しています。
3			